

# 食育は箸使いから…「豆つかみ」競う

フジッコの小学校対抗大会で熱戦



協賛会社のフジッコ（ベルマーク番号65）主催の「第12回小学校対抗豆つかみゲームまめっ子くん大会」が8月27日に開かれました。豆や昆布を主力商品としている同社が、和食作法の基本であるお箸とお椀の使い方を正しく学ぶためにつくったゲームキット「まめっ子くん」で競う大会です。

キットの木製茶碗には豆をのせる32個の穴が開いた中ぶたがあります。利き手に割り箸、もう片方の手に茶碗を持ち、1分間に何粒の大豆を穴にのせられるか競います。会場の東京・池袋サンシャインシティアルパB1F噴水広場には8つの小学校から子どもたちと保護者、さら

にメディア関係者らが集まりました。

このイベントはフジッコが取り組む「食育」のひとつ。競技前に司会者が子どもたちにインタビューすると「早寝早起きして朝ごはんをしっかり食べることを教わった」「お米を育てたことがある」などの答えが。どの学校も高い意識を持って食育を実施しているようです。

同社のCMなどで活躍している「2代目ふじっ子ちゃん」元倉あかりさんと、「初代ふじっ子ちゃん」田牧そらさん、そして大相撲・大関の栃ノ心関というゲストが見守る中、競技開始。3人1組のチーム対抗戦で1人2回、計6回分の合計粒数を競います。運動会でもおなじ

みの「天国と地獄」が流れ始めると一斉にお箸を持ち、大豆を穴にのせていきます。茶碗に粒をのせ終わって「おかわり」する姿も見られました。音楽が止まると1分間終了。静かにお箸を置きます。

しばし作戦タイムやゲストのトークショーがあった後、後半戦に。戦い終えた感想は「さっきより多く豆をのせられた」「練習よりうまくいった」などでした。

優勝は慶応義塾幼稚舎の滝澤怜央さん、高橋菜紘さん、田中塔子さんのチームで合計269粒。副賞の図書券3万円分とメダル、トロフィーが贈られました。過去の最高記録は1分間で46粒でしたが、田中さんは51粒の新記録を樹立し

ました。「人によって違うけど、私はお箸を長めに持つのがおすすめ」と勝利の秘訣を話してくれました。

ゲストの3人も優勝校とのエキシビジョンマッチでゲームに挑戦。栃ノ心関も頑張りましたが34粒でした。「みんな強すぎる。来年はもっと練習して力をつけてきます」とリベンジを誓いました。

大会結果は以下の通りです。

①慶応義塾幼稚舎/269粒②早稲田実業初等部/253粒③世田谷区立奥沢小/227粒④小平市立小平第六小/225粒⑤川島町立中山小/203粒⑥葛飾区立中之台小/189粒⑦葉山町立一色小/186粒⑧北区立滝野川もみじ小/180粒

# 文具のワンダーランド、大阪で文紙 MESSE

日本ノート、ナカバヤシ、クツワが出展

協賛会社の日本ノート（ベルマーク番号05）、ナカバヤシ（同52）、クツワ（同55）が、8月6・7日に大阪市中央区のマイドームおおさかで開かれた「文紙MESSE2019“文具ワンダーランドX”」に出展しました。2004年から続く「文具と紙製品の見本市」です。



日本ノートは、2019年1月にキョクトウ・アソシエイツとアピカが経営統合

した会社です。主力商品のひとつ「カリッジアニマル学習帳・ほうがんノート」は、表紙の動物柄はもちろんかわいらしいのですが、裏表紙が動物のおしりになっているのが面白いです。11月下旬には「アメコミキャラクター5冊パックノート」を発売予定。営業本部の塩川浩司さんは「子どもたちが楽しみながら勉強するのに適したノートを追求していきたいです」と話してくれました。

ナカバヤシは、従来のノートと比較して約20%も軽量化された「ロジカルエアノート」を出展。「自分の娘のランドセルが重い」という社員の意見から生まれた製品だそうで、点線のガイドラインや縦罫線が入った「ロジカル罫」が特徴です。なんと9月公開予定のアニメ

映画「HELLO WORLD」の作中に登場するそうです。製販カンパニー・企画部の貝榎太郎さんはノートに関して「子どもが使いやすい『プラスアルファ』の機能性を大事にしていきたい」と言います。

クツワのブースでは、来場者が消しゴムを試していました。中に鉄粉が入っており、消しクズを磁石で集められる「磁ケシ」の第2弾、「アニマル磁ケシ」と「おじケシ」で、9月発売です。「弊社には『学校では教えてくれない自由研究』をテーマに、『学び』と『表現』の両方を身につけられるシリーズもあります」と商品開発部の名和朋花さん。子どもから大人まで楽しめる製品の秘訣は「商品開発には新卒社員や20代の若手社員も参加する」ことだそうです。



# 「AD全国プロ会」がマーク寄贈

あいおいニッセイ同和損保の専門代理店組織

協賛会社のあいおいニッセイ同和損害保険（ベルマーク番号92）の専門代理店で組織する「AD全国プロ会」は8月27日、集めたマークをベルマーク財団に寄贈しました。全国1134の加盟店が今年5月から7月にかけて収集したものです。

東京都渋谷区恵比寿にある同社本社のセンチュリーホールで開かれた「支店プ

ロ会代表者会議」の中で寄贈式がありました。今年4月に就任したプロ会の細江哲也会長が「たくさん入っていると思います。復興支援によろしく願います」と、マークが入った大きな透明箱を財団の高木文哉常務理事に手渡すと、会場は大きな拍手に包まれました。高木常務理事は「このベルマークは、みなさまが協力して集めた善意そのものと思って

おります。マークは、被災地の復興支援に役立たせていただきます」と感謝を述べました。

プロ会からの寄贈は2017年8月、今年2月に続いて3回目。今年度は下期から新たに「ウェブベルマーク」にも取り組むそうです。

今回寄贈されたマークは、これから同社の社員有志が点数を集計します。



AD全国プロ会会長の細江哲也会長（左）とベルマーク財団の高木文哉常務理事